

『年末調整、確定申告にAI回答 チャットボット開設—国税庁』

国税庁はこのほどHP上に、AIによる自動応答で相談を受けつける「チャットボット」を開設した。これは「チャット(会話)」と「ロボット」を合わせた造語で、メニューから選択された質問あるいは自由に入力された質問に対しAIが回答する。土日や夜間含め24時間対応で、相談範囲は以下の2つ(いずれも令和2年分のみ)。

【年末調整(10月28日～12月28日)】主に従業員からの問合せが多い事項—各種申告書の内容、書き方、添付書類/適用される控除/令和2年分の税制改正/転職や育児休業の取得があった場合の手続き【所得税の確定申告(令和3年1月中旬～)】給与所得、年金の所得/配当所得、株式の譲渡所得/各種控除/e-Taxや確定申告書等作成コーナーの操作

チャットボットの画面は、女性の税務職員「ふたば」が答えているというイメージで作られている。自由に入力された質問に対しては、候補となる回答が複数表示される。回答の末尾には「参考情報」として、関連するタックスアンサー(国税庁HP内)へのリンクがある。質問の意図をAIが認識しない場合は、表現を変えて再度入力する必要がある。個人情報入力は不要。なお、居住者に適用される所得税を前提にしており非居住者には対応していない。



『中小企業は80%近い大幅減 4～6月期企業収益—財務省誌』

財務省発行の「ファイナンス」誌10月号に「コロナ禍における企業活動と今後の課題～企業収益・設備投資・資金調達の動向～」と題する以下のような論考が寄稿されている。4～6月期の企業収益をみると、売上高が前年同期比17.7%減と2009年1～3月期のリーマンショック時(20.4%減)に次ぐ過去2番目の大きな落ち込みとなり、経常利益も46.6%減と同じく11年ぶりの減益率となったと報告した。規模別でみると、売上高は大・中堅・中小企業ともに同程度の低下だったものの、経常利益は大企業が30.6%減、中堅企業が60.1%減、中小企業が79.6%減と、**損益分岐点比率の高い中小企業ほど利益が急激に減少した**。ただ、企業の貸借対照表をみると、短期借入金や社債等の有利子負債を大幅に増加させ、必要な資金を確保した上で将来の不確実性に備えて現預金の保有を増加させている。リーマンショック時と比較すると、今回のコロナ禍の下では政府や日本銀行、**金融機関による積極的な支援もあって借入金が速やかに増加するなど、資金が円滑に確保されていると分析**。半面、現状では最先端のデジタル技術の活用にあたって、新事業への進出や新製品・サービスの開発を目的とした情報化投資が少ないと厳しい見方を示した。



出典元:日本中小企業経営支援専門家協会(JPBM) ※本記事・内容の無断転載を禁じます

21世紀を創造する中小企業のベストパートナー

葵総合経営センター

〒460-0012 名古屋市中区千代田三丁目14番22号
(葵総合税理士法人)

TEL : (052) 331-1768 FAX : (052) 332-5282

『Homepage』 <http://www.aoi-cms.com/> 『e-mail』 aoi@aoi-cms.com